

県世界遺産センター

「入門」講座を開設

県世界遺産センター（田辺市本宮町）は7月から、学校や団体向けに「紀伊山地の霊場と参詣道」の特徴を学ぶ講座「世界遺産入門」を開設した。1～2時間の授業で、展示施設を使ったクイズ形式などの研修を用意する。県外の学校から問い合わせもあり、同センターは「講義だけではなく、体験型の講座を通して、1人でも多くの人に世界遺産の本質を実感としてつかみ取ってほしい」と話している。



クイズ形式のプリントを使って世界遺産を学ぶ中
学生ら（田辺市本宮町で）

文化的景観、学んで

世界遺産を構成する概念「文化的景観」など、文化財としての特徴や価値を理解してもらうとともに、熊野古道歩きに知識を役立ててもらおうと企画した。

世界遺産入門は、小中高生を対象にした「学校用」と、一般向けの「団体用」の2コースある。60分（初級）と90分（中級）、120分（上級）に分けて実施する。

内容は、世界遺産の概要を映像やプリントを使って解説する「世界遺産の魅力」（約20分）や、曼荼羅（まんだら）の絵解きを楽しむ「曼荼羅に秘められた熊野の秘密」（約20分）など。組み合わせる学習する。いずれも、クイズ形式やヒトオを使うなど、講義形式にこだわらずに学習できることが特徴という。

主に成人を対象にした「団体用」には、健康に留意した熊野古道の歩き方を教える「熊野古道の歩き方」もある。学校用では、年齢によって理解度が異なるため、依頼に応じて内容を調整する。保全活動への参加など、実地研修にも

夏休み前には、1回目として田辺市本宮町の本宮中学校1年生21人が受

紀伊民報 平成19年7月24日付

講した。古道から雨水を排水する「横断溝」の清掃など実地研修を予定していたが雨天のため、屋内で研修した。子どもらは、与えられた課題を展示施設の資料から自分で探し出し、プリントに書き込んでいくクイズ式の講座な

どに挑戦した。同センター主任の速水盛康さん（49）は「世界遺産は文化財という性格上、専門的な用語もあり、特に小中学生にとって難しい点もある。講座を通して関心を深めてもらい、本質を理解することで、保全につなげたい」と話している。

また、大学生を対象にした「世界遺産ゼミ」を8月1日～9月30日に開催するほか、8月第1週、第4週には夏休みの自由研究向けの相談を受け付ける。問い合わせは、同センター（0735・42・1044）へ。